

週日の説教

金 大烈 神父 2009年8月29日(土)

《人に腹を立てるのは、自分の嫌いな部分を相手が持っているから・・・》

ヨハネの殉教について一番詳しく伝えているのが、今日のマルコによる福音(マルコ6・17-29)です。このマルコによる福音に書かれている洗礼者ヨハネの姿を、もう少し紹介させていただきたいと思います。

イエス様が生まれる時に、学者達から「救い主が現れます。」と言われた王の名前は、ヘロデでした。ね。それでは、今日読まれた福音のヘロデは、同じ人でしょうか？ 実は、今日の福音に登場したヘロデは、イエス様が生まれた頃のヘロデの息子です。そして彼の本当の名前は、ヘロデ・アンティパスといいます。では、彼はなぜ、自分の兄弟(正確に言いますと腹違いの弟です)の妻を娶ったのでしょうか。

ヘロデ・アンティパスは、ローマに留学をしました。そして勉強しているときに、腹違いの弟の妻であるヘロディアという女性と出会い、心を奪われます。彼の父であるヘロデは、たくさんの幼い子ども達を殺した、残酷な性格の人でした。そして自分の妻も、長男も殺し、誰も信じることができませんでした。もし息子に王位を譲り渡しても、その息子の力が大きくなったら、自分にとって大変な脅威になるのだらうと思い、国を3つに分けてから、残っている3人の子どもに与えます。そして、3つに分けたうちの北を任せられたのが、今日の福音のヘロデ・アンティパスです。ですから、「お前が願うなら、この国の半分でもやろう。」と言うのは、北イスラエルの半分のことになります。

とにかく彼は、聖書によりますと、洗礼者ヨハネのことで腹も立てましたが、逆にヨハネの話を聞こうとするところもあったようです。しかし、人の前で言ってしまったことでもあるし、自分の面目もあるので、仕方なくヨハネを殺したのです。

今日、皆様と話し合いたいのは、「なぜイエス・キリストの道の先駆けとして、道を整える使命をいただいたこの偉大な預言者が、ヘロデのようなとんでもない者に殺される道しか神様は許されなかったのか。」ということです。ヘロデは、はっきり言えば悪い人ですよ。たとえ腹違いであっても自分の弟の妻を奪ったということは、この世の中で許されない悪いことをしたわけです。なぜそのような偉大な人がヘロデのような悪い人に殺されたのか、この福音を読んでいる私たちでも腹が立ちます。まして、殺された洗礼者ヨハネ自身はどのくらい悔しい気持ちで死んだのか、想像ができますね。

しかしよく考えてみれば、このヘロデという人物は、ある意味で全ての人間を象徴しているのです。この福音を読めば、私たちは本当に悪い人だとすぐに思います。しかし、ヘロデが見せた心の働きは、実際にはあらゆる人間の心の中にあることを私たちは意識しなければなりません。結局、洗礼者ヨハネを殺したのは、ただヘロデという人間なのではなく、私たちが持っている「悪意」というものによって殺されたことを意識しなければなりません。そしてイエス様も、「ホサンナ、ホサンナ」と叫んだ人々がある日突然変わって、「十字架につける。十字架につける。」「殺せ。殺せ。」と叫んだ結果、殺されてしまったのです。

このように、聖書を読むと、イスラエル人、ユダヤ人に対してものすごく腹が立ちます。こんなに悪い民族があるのか、と思いますよね。それを上手に利用したのがヒトラーです。「イエス様を殺した悪い民族を全部この世からなくさなければ、この世に正しい平和は訪れない。」と言ってドイツの全ての国民をだましたのです。しかし、私たちだってこのような気持ちになることがあるのです。結局、

遣わされた預言者達は全部人間によって殺されました。そして人間は、危険になると「悔い改めます。赦してください。私たちが悪かったのです。」と祈り、赦されます。そしてまた忘れて、罪を犯します。

イスラエルは今でも争いの絶えない民族です。優しい民族もたくさんいるのに、なぜイエス様は、イスラエルという国を選んで、そのような苦しみをうけられたのか。それに対して、ある神学者がこのように話しています。「イスラエルという民族は、私たちの目からは悪い民族に見えるかもしれませんが、しかし、イスラエルは全ての人々の象徴でしょう。私たち人間は、イエス様を受け止めることができたが、それを忘れて裏切ってしまい、また悔い改めます。このような人間の歴史は、結局、一人ひとりの人間の歴史なのではないでしょうか。」という話しです。

私は100%そうだと思います。結局、私たちが嫌な目で見ると、あざけることが、なぜ自分に腹を立てさせるのかよく考えてみますと、それらの内容はほとんど自分自身の中に見つかるのです。自分の中にあるから腹が立つのです。まず、誰かに腹が立つときにこのような流れを考えなければならないと思います。腹を立てたことと同じようなことが自分自身にはないのか。なぜこのように自分が怒らなければならないのか。もしかしたら、自分の弱さを相手の人が触っているのではないのか。自分の中の一番嫌いな部分を相手の人も持っているから腹が立つのではないのか。それらを考えると、やはり正しい道の答えが出ると思います。

結局私たちは、神様の前には仕方なくへりくだる姿になります。しかし、へりくだる心や態度を見せながら、高慢な姿で文句をいう人生になっていないか、もう一回振り返って見ましょう。

ありがとうございました。